

*Genius English Readings Revised*パラグラフ・リーディングで入試対策
～速読力向上を目指して～

今井康人



皆さんの学校では教科書選定をどのように行っているだろうか。私は毎年、英語科準備室の机の上にすべての見本の教科書を置いて ALT 2 人と共に 3 人で 4 時間くらい読みふけることにしている。そして、いいと思ったテキストとそうでないものにどんどん振り分けていく。これはいいと感じるものだけが残っていく。不思議と ALT と私の意見は一致することが多い。特に重要な観点は

- ①英文のクオリティーが高く自然であること。
- ②コンテンツが豊かで文化的であること。
- ③生徒のどの能力が向上するか明確であること。
- ④写真などのレイアウトが適切であること。
- ⑤夢と希望のイメージにあふれていること。

の 5 点である。この観点から選んだ結果、今年度の本校の英語リーディングの教科書は *Genius English Readings Revised* (以下ジーニアスと記す) に決まった。このテキストがなぜ効果的なのか、全てを記述した場合膨大な量になるので、上記の③を中心にお話したい。

◆出会いのあるテキスト

このテキストには生徒がパラグラフ・リーディングの方法を理解できるような仕掛けが随所に存在している。その仕掛けが大きさに表示されているのではなく、読み進めることでじょじょに定着していくようになっている。

このテキストを読むとそこには出会いがある。その出会いがじつに多く、内容も深い。時として ALT は読みながら感心し、笑っていることも多かった。編集者の英知と経験を振り絞って作成された教科書であると私は感じた。なぜそう感じた

か。それはこの教科書の特色からも窺える。

1. 大学入試直結のトピック：過去の入試長文問題をリサーチし、コミュニケーション、生物、環境、平和などの頻出トピックを教材化。
2. 難関校の 2 次試験対策：難関校の長文問題は 800 語が目安だがジーニアスは、780 語～1100 語までの英文を揃えてある。各教材は『ジーニアス英和辞典』などの語彙頻度情報を活用し、易から難へと配列してある。
3. リーディング・ストラテジー対策：雑誌、ガイドブック、手紙など、それぞれの媒体に合った効果的な読みのコツが示されている。
4. 名作：村上春樹『ノルウェイの森』、オスカー・ワイルドの短編など、読む楽しみを味わえる教材を Supplementary Reading に採用している。
5. 語彙力増強：読解力の要となる語彙力を効果的に養成するための Vocabulary コーナーが充実。ポキャビルに役立つ「接頭辞一覧」「接尾辞一覧」も完備されている。ここの評価が高い。

以上が大まかな特色である。進学を希望する生徒にとって大学入試で成功することは悲願でもある。進学ばかりに意識がいつて受験競争を進めるような教育はよろしくないことは重々承知である。しかし、生徒にとって希望大学に合格しなければ入学は許されることはないことも事実であり、その試験内容は決して易しくはない。

本校はいわゆる進学校であるが、英語科の方針は受験の先にあるものを目指している。社会人になっても英語を学び続けることができるような下地を培う。そして、必要なときにいつでもやり直しがきくようにするべきであると考え。英語学

習に否定的になってしまったらその効果は半減してしまう。受験だけを目指してしまったら、受験終了後それは消滅してしまうのである。

センター試験や大学入試の長文に使われる語彙数は依然増加傾向を示している。興味深いデータを紹介したい。2008年実施のセンター試験問題を1問1分ペースで回答した場合のwpmはなんと182.4になる。2006年は143.6wpmであった。2007年で186.7wpmになり、この年を境に異常なハイペースでセンター試験に変化が起こったのである。この変化に対応している高校はまだ少ない。

平均的な高校生のwpmをご存じであろうか。本校が実施している学校作成の模試から考察すると約75wpmである。センター試験では倍の速読能力が必要とされていることになる。生徒はスキルとして速読の能力や技術を習得する必要がある。

ジーニアスは本文の読解を通じてパラグラフのいろいろな形態を学べるように構成されている。特に文章の構成に関して列挙、連続性、比較、因果関係などにスポットをあてており、読み進めるだけでこれらの習得ができるようになっている。

さらにスキミングや大意把握ができるようにActive Readingのコーナーが設定されている。パラグラフ・リーディングには簡単に習熟することはできない。時間と修練が必要だが、各レッスンに対応した練習問題が用意されている。特にパラグラフ・リーディングに特化したスペースを大幅に使っている。それがワークブック（スタンダード）に盛り込まれているのである。しかもそのページ数は約40ページもあるのだ。従来のワークブックの内容に加えてこのコーナーが設けられ、生徒が取り組めるようになっている。まさに自学自習教材にも成り得るほどの充実ぶりだ。

◆ALTが読んでもおもしろい内容

冒頭にも記載したが、私はALTとともに読んで教科書を採択している。ALTの視点からジーニアスをどのように捉えているのか記述したい。

The content is interesting and varied — not

just the main lessons, but also the supplementary content. There is no obvious strange English. All the English seems to be quite natural.

たとえば、Supplementary Readingのコーナーで紹介されている“All American Slurp”は中国からアメリカに移民した作家がユーモラスにつづる、異なる生活習慣のなかでの体験談で興味深い。

さらに印象に残った教材を挙げてみる。第9課にでてくる衝撃的な写真に注目したい。数百キロもあろうかと思われるゴリラが気を失った少年を抱えているのだ。この写真を見たとき自分の目を疑った。そして急いで英文を読んだ。

A three-year-old boy fell into a gorilla enclosure and was knocked unconscious. Within moments, Binti Jua, a female gorilla, approached, picked up the unconscious boy, and cradled him in her arms. Then she walked over and gently put the boy down in front of the caretaker's door.

いくつか意味の分からない単語があるかも知れないが、生徒たちは真剣に読むであろう。そして、ゴリラが意識を失った少年を大切に飼育員用のドアの前に置く姿をイメージするであろう。このような感動的な内容が重要である。人を大切にする精神を教えなければならないのだ。

圧巻はLesson 10である。見開き2ページを絵画（ボッティチェリの『春』）に割いている。こんな大胆な図版の使い方はなかなかない。素晴らしい絵画がこちらに迫ってくる。感受性豊かな生徒たちの感性を高めることができるのである。

もう1人のALTが絶賛した箇所がある。巻末付録に接頭辞と接尾辞の一覧が出ている。リーディングのテキストでここまで語彙にフォーカスしたものは少ない。

このテキストを真剣に学ぶ生徒たちから感動の波が押し寄せること必須である。何度も何度も音読し、暗写ができるまで習熟させる予定である。新学期が待ち遠しい日々を送っている自分は幸せなのである。（いまい やすひと・函館中部高等学校教諭）